

視察報告

オーストラリア The University of Queensland 視察報告

伊藤 浩 充・瀬 藤 乃理子
山 本 綾 子・芝 寿実子

An Inspection Report about the Education of
Physical Therapy and English in the University of Queensland in Australia

ITOH Hiromitsu, SETOU Noriko, YAMAMOTO Ayako, and SHIBA Sumiko

I はじめに

甲南女子大学看護リハビリテーション学部の教育目的には「国際社会に貢献できる人材を育成する」ことがあげられている。国際色豊かな神戸で学び、国際医療の中で理学療法士として活躍したいと考えている学生たちのために、理学療法学科では学生が海外研修の機会を持てるように毎年海外研修の企画をしている。これまで、アメリカのサンフランシスコ州立大学やカナダのオカナガンカレッジで海外研修を実施してきた。更なる新天地を求め、理学療法の専門的講義が受けることのできる研修先として、オーストラリアのブリスベンにあるクイーンズランド大学 (The University of Queensland: UQ) での海外研修を企画した。

今回、平成29年5月4日～5日の2日間にUQを訪問し、UQの教育環境、ブリスベンの生活環境などを中心に事前視察を行ってきたので報告する。

II The University of Queensland (UQ) について

当大学は、オーストラリア東部のクイーンズランド州にある (図1)。1910年に初めての総

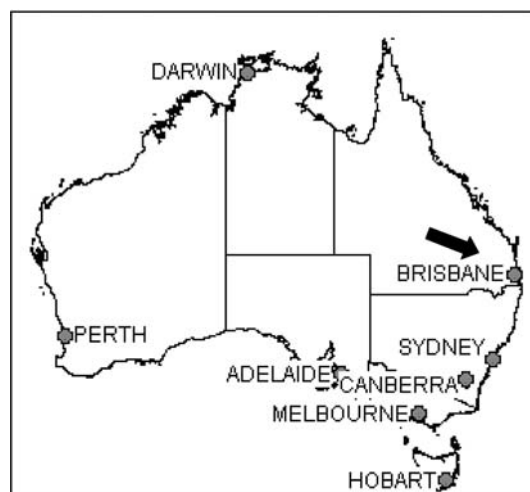


図1 UQのあるオーストラリア東部のBrisbane (ブリスベン)

合研究教育大学として設立され、国際的な教育、研究機関として認識されている。キャンパスは、ブリスベンにある St. Lucia キャンパスと Herston キャンパス、南東クイーンズランド (South-East Queensland) にある Gatton キャンパスといった3つのキャンパスがある。

我々が視察したのは、St. Lucia キャンパスである (図2)。このキャンパスはブリスベンの高級住宅街に位置し、117 ha の緑溢れる広大な敷地に建設されている。ブリスベンの中心地からは約7 km 圏内にあるので市バスなどの公共交通機関を利用して通学すること



図 2 UQ の St. Lucia キャンパス内にある学舎

ができる。また、ブリスベン川にも沿っているので City Cat という水上バスでも比較的便利にアクセスできるようになっている。

2016 年度の学生数は、大学と大学院を合わせて 51,070 人、そのうち 141 カ国から 13,337 人の留学生も在籍している国際色豊かな大学である。オーストラリア国内でも最も有名で伝統のある大規模大学 (Group of Eight) の一つである。世界ランクで言えば、科学論文ではトップ 50 の中にあり、The QS World University ランクでは 47 位に位置している。

Ⅲ UQ 視察内容について

1) ブリスベン市街の交通や生活環境について

UQ の St. Lucia キャンパスはブリスベンにあるので、まずブリスベンの視察内容を述べる。ブリスベンはオーストラリアの東海岸に位置する、クイーンズランド州の州都である。気候は亜熱帯気候で冬でも暖かく、別名「サンシ

ヤインステート (太陽の州)」と呼ばれている。年間を通して晴れた日々が続き、気温はだいたい 10~25℃、湿度は高くないので過ごしやすい気候である。そのため、服装は春や秋は半袖に、長袖で調節する程度らしく、視察したところは 5 月初旬であったのでほとんどの人が半袖シャツかノースリーブシャツであった。しかし、紫外線の強さは日本の 4~5 倍もあるので、外出時には日焼け止めやサングラスの使用などの対策が必要と思われる。

また、ブリスベンはオーストラリア第三の都市で神戸市とは姉妹都市である。また、たいへん自然に恵まれた場所でもある。高層ビルが立ち並ぶ地区であっても、その合間を縫うように緑の木々や色とりどりの花が咲き、ひとの生活にやさしい環境であると感じられ、近代的かつ親しみやすい街である (図 3, 4)。電車で少し足を延ばせば、すぐに海岸にたどり着くことができる。日本でも有名なゴールドコーストやサンシャインコーストなどオーストラリアを代表するビーチリゾートがあるが、視察期間が短かったため、今回は視察できなかった。街の中では、世界各国の料理が味わえるレストランやカフェ、映画館や美術館も充実しており、学生にとっても退屈しない街であると感じた。

ブリスベンの治安は、かなり安全である。街歩く人々は非常にフレンドリーで優しく、ゆったりとした土地柄、人柄であると感じた。現地の人たちに話しかけても、留学生に問いかけても、安心して過ごせる街であることが伺えた。



図 3 ブリスベンの市街地

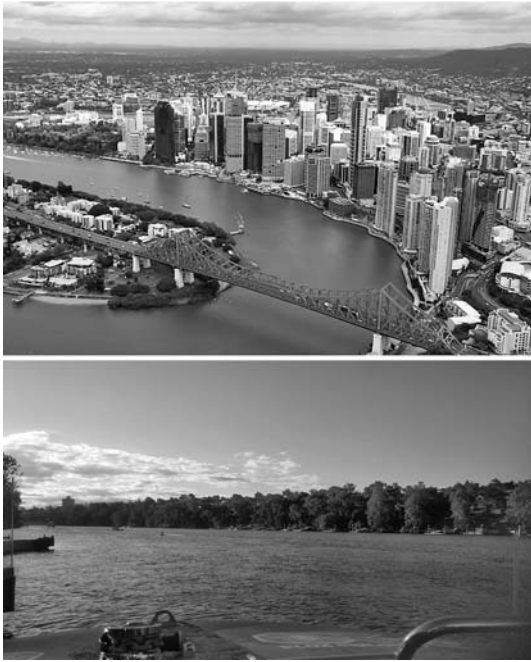


図4 ブリスベン川と運航するフェリーから見た景色

市街地は日本の街中とよく似ており、他国籍の人たちで昼夜ともに賑わっていた。夜の市街地もあまり危険な様子はなく、女性も多く出歩いていたので、比較的治安も良く、学生にとっても住みやすい都市であると感じた。

交通は、市内の移動にはバス、電車、水上バスがある。これらの乗車利用には、予め Go-card を購入して乗車すると便利である。Go-card は、市内のバスや電車、フェリーなどの移動手段に使い、使い方は日本の IC カード（日本でいう ICOCA や PiTaPa など）の使用法と同じで、駅や車内にある読み取り機にタッチするだけで、しかも現金より安く利用できる。Go-card への現金チャージは、駅や市街地の所々にあるセブン・イレブンでチャージできるほか、UQ のバス停にもチャージ機がある。

生活について気になるのが、物価である。オーストラリアは全体的に物価が高く、移動費や食費などは日本の 2~2.5 倍程度の値段である。例えば、朝の軽食や昼のカフェでのランチでも 15 ドル程度（5 月 3 日時点での為替レートで日本円にして 1300 円程度）、水などのペットボトルも 3~4 ドル程度（日本円にして 250 円~350 円程度）はかかる。

2) St. Lucia キャンパスの視察について

UQ の St. Lucia キャンパスへは、ブリスベ



図5 St. Lucia キャンパス内の学舎や公園



図6 St. Lucia キャンパス内の学生の様子

ンの市街地からバス（412 系統）で 15~20 分で到着できた。現地でキャンパスを目の当たりにすると非常に広大な敷地であった。この広大な敷地内には格調高い石壁で作られた校舎、図書館、博物館、研究施設などが点在していた（図 5）。その一方、誰もがどこでも気軽に座ったり、寝転んだりすることができるように芝生が敷き詰められた公園もあった（図 6）。木々が多く、木陰がいたるところにあり、鳥などのさえずりが絶えず、自然と融合するように学生たちは本を読んだり、談話したり、食事をしたり、散歩をしたりしていた。大学の方針として、学生たちは勉強では厳しい環境にしているのでそのストレスから解放させてあげるためにもこのようなリラックスできる環境を整え、その中で良い学びを体験してほしいという考え



図7 St. Lucia キャンパス内の様々なアメニティー

があるようだ。多くの学生たちが夜遅くまで思い思いの場所でノートや本を開いたり、パソコンを使ったりして勉強し、友人や教員と話しかう姿がみられた。さすがに評判通りの充実した教育環境を誇るオーストラリア名門大学だけのことはあり、トップレベルの姿を見ることができた。

その他、大学内のアメニティーも充実しており、学内に複数のカフェ、文具店、本屋、映画館などがあり、必要なものはほとんど大学内で調達できる(図7)。

3) St. Lucia キャンパスでの教育・研究の環境について

課程や専攻は、St. Lucia キャンパス内だけでも数多くあり、大きく分けて下記の6つの過程で Undergraduate programs, Postgraduate programs, Research programs が置かれている(表1)。その中でも様々な専攻に分かれていた。

- Business, Economics & Law programs
- Engineering, Architecture & Information Technology programs
- Health & Behavioural Sciences programs
- Humanities & Social Sciences programs
- Medicine programs
- Science programs

今回の視察は、英語教育と主に理学療法学の教育・研究の環境を知ることが目的であったの

で、英語教育については Institute of Continuing & TESOL Education (ICTE) 部門を視察し、理学療法学については主に Health & Behavioural Sciences programs の Physiotherapy (理学療法) の教育・研究の環境を見学した(表2)。

まず、UQ の St. Lucia キャンパスでの英語教育は1981年から行われており、ICTE はオーストラリア国内では最も古い歴史をもつ政府認定英語学校の一つである。留学生の英語教育は、レベルを問わず一年を通して全て ICTE で開講されている。規模も大きく常に(平均)500~600名の学生が在籍し、留学生の国籍も偏ることなく様々な国から受け入れており、日本からも多くの語学留学生を受け入れている。また、ICTE 部門では、数十名のスタッフが配置されており、国際交流を統括している。今回の視察では、関西大学と早稲田大学からの留学生と話をする時間があり、学生たちはUQでの学びに満足しているとのことであった。また神戸大学の経営学部の学生の場合は、特別研修のプログラムを受けており、午前が語学研修、午後は経営学の授業といったアカデミックな専門分野の研修プログラムであった。

次に、UQ の理学療法部門については、学部から大学院まであり、学内に理学療法学を学ぶ学生が運営するクリニック(UQ Student Physiotherapy Clinic)と実際に患者の理学療法治療を行うクリニック(UQ Physiotherapy Clinic と Brisbane Sports and Spinal Physiotherapy Clinic)があった。広い地域から患者がこのクリニックに治療を受けに来ているそうである。

a) UQ Student Physiotherapy Clinic

当クリニックは、教員の指導・監視の下で4年生の学生が運営し、患者の治療を行う施設である。治療前後1回ずつのアセスメントと4回の治療を実施し、10名の学生で1クールとして、学生達は決められた時間ごとに患者に対応することになっている。患者は無料でこれらの治療を受けることができる。学生たちは1クールごとに、毎回、治療のあとで集められ、指導者からそれぞれの患者の治療に関するフィードバックを行うことになっている。このクリニックのある棟には身体障害者の運動機能の評価が

表 1 Health & Behavioural Sciences programs at St Lucia

Undergraduate programs	Postgraduate programs
Bachelor Programs	Masters Programs
Exercise and Nutrition Sciences	Advanced Nursing
Midwifery	Audiology Studies
Nursing	Business Psychology
Bachelor (Dual Degree) Programs	Clinical Exercise Physiology
Nursing/ Midwifery	Clinical Pharmacy
Bachelor Honours Programs	Clinical Psychology
Clinical Exercise Physiology (Honours)	Counselling
Exercise and Nutrition Sciences (Honours)	Dietetics Studies
Exercise and Sport Sciences (Honours)	Mental Health Nursing
Health, Sport and Physical Education (Honours)	Nurse Practitioner
Human Services (Honours)	Nursing Studies
Midwifery (Honours)	Occupational Therapy Studies
Nursing (Honours)	Organisational Psychology
Occupational Therapy (Honours)	Physiotherapy
Oral Health (Honours)	Musculoskeletal Physiotherapy
Pharmacy (Honours)	Sports Physiotherapy
Clinical and Experimental Therapeutics	Physiotherapy Studies
Physiotherapy (Honours)	Psychology
Psychological Science (Honours)	Clinical Neuropsychology
Social Work (Honours)	Counselling
Child, Youth and Family	Health
Health and Ageing	Sport and Exercise
Mental Health	Social Work Studies
Speech Pathology (Honours)	Speech Pathology Studies
	Sports Coaching
	Sports Medicine
	Masters (Extended) Programs
	Clinical Dentistry
	Dento-Maxillofacial Radiology
	Endodontics
	Oral Medicine
	Orthodontics
	Periodontics
	Prosthodontics
	Special Needs Dentistry
	Professional Doctorate Programs
	Psychology
	Clinical Neuropsychology and Clinical Psychology
	Clinical Psychology
	Clinical Psychology and Clinical Geropsychology

表2 St Lucia キャンパス内での視察行動

年月日	訪問施設	内容	説明・案内担当者
2017年 5月4日	1) UQ Student Physiotherapy Clinics	クリニックの説明	Assistant in Physiotherapy School of Health & Rehabilitation Sciences
	2) UQ の施設案内	キャンパス内施設見学	Joel Manning 氏 Regional Manager Market Development
	3) ICTE-UQ 部門 (国際交流: 英語プログラム)	甲南女子大学に提供される英語プログラムの内容確認と要望について	Aaron Pont 氏 Christopher Nuttall 氏 Regional Manager Market Development Assistant Director of Studies
	4) ホームステイ部門	UQ のホームステイの現状の説明と確認	Desiree van Aswegen 氏 Manager Homestay
	5) UQ Physiotherapy Clinics, Research lab, Teaching spaces	施設見学とクリニック・スタッフによる説明	Michelle Smith 氏 Senior Lecturer in Physiotherapy, School of Health & Rehabilitation Sciences
2017年 5月5日	1) Brisbane Sports and Spinal Physiotherapy Clinic	施設見学とクリニックの説明	Paul Fien 氏 Physiotherapist
	2) ICTE-UQ 部門	甲南女子大学に提供される UQ プログラム全体に関する話し合い (プログラム内容, 費用, その他)	Aaron Pont 氏 Klaus Grosseholz 氏 Manager Market Development Co-ordinator ESI Programs
	3) UQ 日本人留学生との面談	UQ の英語プログラムに参加している日本人留学生からの情報収集	関西大学2名 早稲田大学2名
	4) ホームステイのある地区の視察	Toowong area, Indooroopill area, Chapel Hill area, Kenmore area	

できる床反力計や運動負荷試験装置など様々な研究設備があるほか、講義用の教室や体育館などが併設されていた。また、隣接している棟には、ヘルスプロモーションとして健康な人を対象としたエクササイズを行うフィットネスジムやプールなどの大きな施設もあった。

b) UQ Physiotherapy Clinic

大学内にある当クリニック (図8) は、有資格の理学療法士が作業療法士や言語療法士などと連携しながら、成人から子どもまでの治療に携わっている。大学という教育・研究施設に併設したクリニックであるが、オーストラリア全土から治療を求める患者がおり、遠隔地の患者に対してはインターネットビデオを介した指導なども開始している。

大学では理学療法士の領域のみならず他の領域とも連携しながら、教育・研究、クリニックの運営にあたっている。視察での見学の様子から、教育・研究には色々と工夫が凝らされていた。例えば、実習室には、ベッドとその周囲にはビデオと何台ものモニターが設置され、学生達がどのベッドで実習していてもそのモニターを通して、教員が確認をしながら指導・教育をできるように工夫されていた。また、大学院生等の研究成果がいくつも廊下に掲示されており、さまざまな研究がなされていることを垣間見ることができた。

ちなみにオーストラリアでは、理学療法士に



図8 St. Lucia キャンパス内にある Physiotherapy clinic の室内の様子

なるための教育カリキュラムは日本と同じ4年制ではあるが国家試験はない。入学時に Health & Behavioural Sciences programs に入るのが毎年数百人であるが、その後、スポーツ医学、健康スポーツ体育学など様々な部門に分かれていき、最終的に理学療法のコースに残るのは40名程度となるそうである。

c) Brisbane Sports and Spinal Physiotherapy Clinic

当クリニックは、キャンパス敷地内にあるクリニックで、ここでも理学療法士による治療が行われている。腰痛やスポーツ外傷などの痛みに対して、マニュアルセラピーなどを実施している。

IV 本学理学療法学科の 研修プログラムについて

今回の視察では、本学に提供される最終的な研修プログラム案が呈示され、双方の見解や要望などを話し合った。

まず、我々は、語学研修に関して、最初の2～3日には日常英会話による英語レッスンに慣れることから始め、その後、医療や理学療法に関連した英語のクラスにして頂くよう要望した。本学の理学療法学科においては語学系の授業が少なく、学内で TOEFL を受けるシステムにはなっていない。そのため、学科内では事前に英会話のレッスンをすることで準備しているが、十分とは言えない状況である。UQ にはいくつかの英語研修プログラム（表3）があることから、本学の学生に対しては初心者向けの研修プログラムをお願いした。午後の理学療法の授業では、クリニックの見学も含めできれば現地の学生との交流ができる時間を設けて頂きたい旨をお願いした。理学療法に関する講義はすべて通訳を入れてほしいとお願いしたが、旅費を含めた研修費が高騰する懸念があり、今後検討することとなった。

研修費に関して、UQ からのアドバイスでは、プログラム費用は18名の学生が揃うと最安価になるらしく、本学科としては、参加者を多く集める努力が必要である。また、本学科だけの学生では人数不足であれば他大学と合同で研修プログラムに参加する方法でも受け入れ可能との意見もあったので、今後検討することとなった。

V ホームステイについて

ホームステイ環境としては、数多くの受け入れ先が UQ 周囲の交通圏1時間以内の郊外に準備されている。ほとんどのホームステイ先からはバスまたは電車を利用することによって UQ に通学できるようになっている。ブリスベンの交通に関するスマートフォン用のアプリがあり、学生はそれを利用している。時刻表なども検索できるが、時刻表通り運行されないことがよくあるらしい。フェリーも市街地から運行しているが、通学に使用している学生は少ない（図9）。

ホームステイ先の家族と受け入れ留学生とのマッチングについては、予め学生に個人シート



図9 UQ の St. Lucia フェリー乗り場

表3 英語研修プログラムの種類

種類	水準	期間
1) 一般英語 (GE)	生活と仕事における英語コミュニケーション能力 (準初級～上級)	5-45 (週)
2) 国際ビジネス英語 (EIBC)	ビジネスの場で使用する英語力上達 (中級上レベルと準上級レベル)	5-20 (週)
3) 進学英語 (EAP)	大学での勉強と IELTS 試験のための準備 (中級上レベルと準上級レベル)	5-30 (週)
4) ブリッジング・プログラム (BEP)	UQ の大学及び大学院へ進学するための英語コース (準上級レベルと上級レベル)	10-30 (週)
5) ゴー・グローバル	英語トレーニング、就職前の準備、専門職インターンシッププログラム (中級上レベルと上級レベル)	19-24 (週)

を記入してもらい、その情報に基づいて家族の状況や趣味、嗜好などができるだけマッチングするよう配慮しているとのことであった。ホームステイ先が決まると、学生は所在地や交通手段、家庭の簡単なルールを示した用紙を渡される。各家庭によって、洗濯の方法、休日の過ごし方などルールや過ごし方が異なる。日本との違いで注意を受けやすいことは、水道料金が高いのでシャワーなどの水の利用時間に制限があること、Wi-Fiで大容量のアプリや映画などをダウンロードしないこと、節電のために電灯をこまめに消したりドライヤーを使いすぎたりしないことなどがあげられる。オーストラリアの多くの家庭は就寝が早く（一般に午後10時頃）、朝が早い（午前4～5時頃）そうである。部屋で勉強するのは構わないが、夜遅くまでリビングでテレビを見るような家庭はないとのことである。

留学生からの情報では、ホームステイ先との大きなトラブルや、通学中の事故や犯罪などは聞くことはなかった。トラブルとして時々あるのは、ホームステイ先でのコミュニケーションの僅かな行き違いが次第に大きな問題へと発展することがあるようである。トラブルがあった場合は、適宜、ICTEのホームステイ部門のス

タッフが対応しているが、早く生活環境に慣れトラブル発生を回避するためにも学生から積極的に家庭に入ろうとする意識が大切である。

VI 視察を振り返って

UQの教育環境、生活環境は、留学生にとって非常に整えられた環境であることがわかった。しかし、本学理学療法学科の学生が受ける研修は、単なる語学研修プログラムだけでなく、医療現場であるクリニックや研究施設での研修プログラムもあるので専門的な立場でリスク管理をしたり通訳をサポートしたりする引率教員がいないと、学生がより安全に安心して海外研修を受けることができないと考えられる。それを回避するためには少なくとも教員2名が引率するべきであると考えられる。今年度の研修プログラムの実施は、残念ながら見合わせたが、次年度以降の実施に向けて研修費用と学生募集方法について検討していくこととなった。また、UQの学術的な観点からは、スポーツ外傷、痛み、がん、肺疾患や糖尿病などの内部障害、コミュニティケアなどに関する研究も盛んに行われているため、教育・研究に関して教員間の交流が深まるようにしていきたい。